

第 2 4 回 豊田市市政顧問会議 <公表用>

【日 時】令和 5 年 8 月 3 1 日（木）午前 1 0 時～午前 1 1 時 4 0 分

【場 所】豊田市役所 南 5 2 会議室

【出席者】会 長 奥野 信宏（公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋
都市センター長）

副会長 三宅 英臣（豊田商工会議所 会頭）

委 員 阿垣 剛史（豊田市区長会 会長）

同 石川 尚人（あいち豊田農業協同組合 代表理事組合長）

同 伊藤 葉子（中京大学 現代社会学部 教授）

同 大橋 一之（愛知県労働者福祉協議会 豊田支部長）

市 長 太田 稔彦

副市長 安田 明弘

副市長 鈴木 学

【次 第】1 開会

2 会長あいさつ

3 市長あいさつ

4 議事

5 閉会

【議 事】

- ・「第 9 次豊田市総合計画」の策定について

<主な意見>

- ・行政は基本的にはハードの整備を担い、それを舞台として演技をして、まちを磨いていくのは市民の役割という風に思っている。平時の楽しみの活動などで生まれる人のつながりが有事の際には強靱化になると思っている。
- ・国土形成計画では、二本の概念があり、コンパクト＋ネットワークは「列島の隅々までの豊かさを追求する」という考え方。もうひとつはスーパーメガリージョンである。東京一極集中では限界がきているので、東京、名古屋、大阪が一体となって、日本の成長をけん引していくという考え方。
- ・岡崎市の資料の中で、コロナで就業者数が大きく減っていた。私の推測では、最初に外国人労働者が減少しているのだと思う。これについては、日本の中に

外国人労働者の方の生活が根付いていないということなのだろうと思う。

- ・参考資料の市民意識調査において、住みよさ満足度や定住意向の数値について、30代が伸びていない。30代は、結婚する、子どもを産む、家を建てるというような大きな変化点を生む年齢層。収入面、住みやすい環境づくりと一緒にやっていかないといけないのだろうと思う。
- ・カーボンニュートラルに向けて、電動車も広がってきている。サブスクを対象とした補助金を設けるなど、補助金の幅を広げられると良いと思う。
- ・共生社会を作っていくための多様性ということに目標を置いていくことは、これからとても大事ではないかなと思っている。予測困難な時代に、子どもたちが多様な価値に触れることが、根拠はないかもしれないが、何とかなると思えることが、課題に対処していく底力に繋がるかなと思う。
- ・気づく、考える、行動するということは、とても大切なことだと思っているのですが、これは日常的に実際に交わっていないと、なかなか気づいたり、考えたり、それに基づいて行動することはできない。
- ・豊田市自身がこれから高齢化で、単身の高齢者が増えていくということを考えた時に、ケアの担い手を日本人だけで賄っていくのは現実的にかなり厳しい。外国籍の方々と一緒に地域ケアを担っていった時に、そういった方々がここに居続けて、自分のスキルを磨きながら、社会還元をしていこうという仕組みをどうやって作っていったらよいのだろうかと思う。
- ・働き盛りの30代の就業割合が上昇したことによって、M字カーブの谷間がなくなってきている。共働き世帯がとても増えていることは豊田市も例外ではないと思う。子育てをしながら働き続けるということに関する子育て支援について、豊田市はとても一生懸命やられていると思うが、もう一歩前進できたらと思う。
- ・実際に一番困るのは小学校に上がってから、しかも高学年に入ってから学童保育が利用できないこと。長久手市は来年度から学童は小学校6年生まで拡大して、土曜日も開校し、保育時間も19時まで延長できるようになる。豊田市は18時半までだったと思う。土曜日も開校していないと思う。できることであれば、学齢期の子育て支援を少しお考えいただけると良いのかなと思っている。
- ・愛知県下の少子化に拘わらず支援学校が増えている。教育の場で分けてしまうことがあり続けていいのかなと思う。地域の学校ないし地域で育ち続けることが多様性を学んでいくことの土台になっていくと思う。教育の機会の中で、多様性ということをお子に伝えていく機会をどのように作っていくのかとい

うことを未来志向で考えられたらと思う。

- ・これは豊田市だけでは解決できないことだと思うが、駅が無人化になった時に、ケアが必要な人が1人で出歩くという発想にあまりならない。少しのサポートがあれば移動は容易になるのに、駅員がいないことで、外出ができない、車で移動できないと行きたいところにも行けないというような移動状況になってしまっているのかなという点で、駅を中心としたまちというものを整備されることで、ある面駅員さんも人のつてということが、もう一度考えられといいのかなと思う。
- ・第9次豊田市総合計画の方向性については、異論はない。しかし、具体的に何をやるかという話になると、それぞれ立場も異なり手段が分からないので、具体的なことがサンプル的に、行政がやるとしたらこういうことをやっていくというものがあると分かりやすく、取組みやすいと思う。
- ・市政顧問会議の論点の中で、「2050年を展望したまちづくりの構想について」とありますが、これについては、豊田市の経済成長をけん引してきたのは企業ですので、そういうことで生産活動の維持・強化という視点が残念ながらここには載っていない。これからまだまだ豊田はものづくり中心にいくと思うので、その視点がもうひとつ欲しいなと思う。
- ・「2025年から5年間における重点的・優先的な取組について」ということだが、後期高齢者、2025年問題が必ず出てくる。キーワードは地域共生社会と人生100年時代。これは言葉ではいいけれども、人生100年時代といっても、相変わらず規制で65定年、70定年では、それから30年どう生きるのかということが、規制緩和を含めて、企業、国、行政含めて変えないといけないと個人的には思っている。
- ・豊田市は広いので、今までは右肩上がりできて人口42万になった。ここにきて減りつつある。産業構造が変わると普通にやっていると、42万人を維持できなくなると思う。そのために、何をやるかという話を今から考えておかないといけない。いろいろなところに行政の機関がたくさんある。それを少子高齢化に向かって、統廃合をしていかないといけない。今だから、豊田市だから成り立っているが、30年後を考えると心配になる。それをイメージするチャンスかなと思う。
- ・資料をみて、とても素晴らしい、こんなまちになるといいなと思う。一方で、農の視点がもっと入らないかなと、農の魅力がもっとあるのかなと感じている。
- ・都市構造の「自然」のところをみると、最終的に「農林漁業振興と調和したメ

リハリのある土地利用を推進」とある。これは大きな目標だろうと思うが、実際にどうなっているかということ、現状はそうっていない。農業の就業人口がすごく減っている、もっと言うと田舎が疲弊しているということが見えてくる。これを仕方がないといってほかっておくと、例えば車で15分20分走ったところの山に行った時に、山でしかないようなきれいな田園風景が見られなくなってしまう時代がすぐそこまで来ている。豊田市の面積を占める6割から7割を占める中山間地がこのままいくと疲弊していく。そういうことに対する方針がここに欲しいと思う。

- ・食料安保の時代が見えてきた中で、豊田市全体で考えた時に、すべて作っていくことはできないが、何とか主食の米だけは確保したい。そのために平地で米を作るとなると、工場がどんどん出てくる、残った中山間地は耕作者がいなくて農地が森に還っているということとどこかに視点を入れてもらえるとありがたい。
- ・まちの発展ということを考えると、工場があった方がいいなと私も思うし、その中でまちづくりということは大きく反対はしないが、緑がなくなってしまうといいのかな、豊田市いいのかなということはいいたいなと思う。
- ・豊田市は人口が減少しているということで、出生者数が減っていることは仕方ないと思うが、生産人口が市外に転出しているということも多いことを聞いている。宅地が少ないことで住宅の価格が高いということもあると思うので、宅地をたくさん作るということが必要だと思う。
- ・過疎化が進んでから行政が施策を打つが、過疎化が進んでからでは手遅れということが多々あるので、そういうところは事前に、早くから規制を緩和するなど施策を考えてもらいたいと思う。
- ・計画の方向性はよくできていると思うが、あとは中身をどのようにしていくかということだと思うので、その点を考えて進めてもらいたいと思う。
- ・第9次の方向性について、どこかにスタートアップの話とかがひと言入ってもいいかなと思う。
- ・やはり最終的にまちづくりを進めていくと、規制がどうしても引っかかる。規制を作っているのは行政であり、緩和をする部分も行政がやればよい。規制を緩和することをやらないとやっぱりまちづくりは基本できないのではないかなと思う。
- ・新しく入ってくる人でも、一戸住宅で住む人はその地域にすぐに馴染んでくれる。高層ビルやなんかで自治区に入っている人でも区費も払ってくれないこともあるが、僕ら田舎では区費も自動で振り込んでくれて、戸建ての人はすぐに

馴染んで協力してくれて、とても良い地域。なんでもかんでも市内で戸建てという訳にはいかないと思うが、その辺の違いはある。

(以上)